

《2015年(平成27年)度入学生用》

〔建築学部 3学科共同年次〕

School of Architecture
Common Basic Curriculum

【建築学部3学科共通】

建築学部 まちづくり学科
建築学部 建築学科
建築学部 建築デザイン学科

■建築学部3学科共同年次の教育理念

これまでの建築教育体系では、多くの大学が単一学科の中で1～4年次の教育を一本の道筋で行ってきた。しかし、近年、建築に対する社会的要請がさらに多様なものとなり、学生の興味も多様化している時代にあって、建築学、および、それに関連する幅広い分野の教育が求められるようになってきた。こうした傾向に対応して、建築学部では、1、2年次を建築学部の3学科共同年次とし、次に挙げる2本の大きな柱で教育課程を編成している。

- 1) 人間力、および、コミュニケーション力を養うA群「総合教育科目」
- 2) 専門力を養うB群「専門科目」

B群「専門科目」は、1、2年次に配当されるa)「専門基礎科目」と3、4年次に配当されるb)「専門科目」とに分けられる。これらにより、建築学部の3学科共同年次では専門分野だけに偏らない総合的な能力のある人材の育成を目標とする。1、2年次の建築学部3学科共同年次においては、学生はB群の専門科目のうち、専門基礎教育に関する同一のカリキュラムを学習する。その目的は以下の2点である。

- 1) 建築学を学ぶ者に必要とされる基礎的な素養は、将来、どんな方向に進もうとも共通である。したがって、入学時からの2年間は、専門基礎教育に関する3学科同一のカリキュラムとして、基礎的な素養を身につける期間としている。また、この2年間の学習内容は、ほとんどの学生が将来の目標としている建築士資格を受験するために必要な内容のかなりの部分をカバーしている。
- 2) ひとことで「建築」と言っても幅は広く、奥も深い。大学を選ぶ段階で全体像を詳しく知ることは難しく、その段階で細かな学科を選択したとしても、入学後にその選択が本当に自分の勉強したいことと合っていないことに気づいたり、入学前には知らなかった分野があることを知り、そちらに進みたくなったりする例が少なからずみられる。そこで、1、2年次の専門基礎教育を通じて、この分野の幅の広さ、奥の深さを学生がある程度理解し、将来の進路も見定めるようになる3年次から各学科に配属される方法を、建築学部としては採用している。
1、2年次の3学科共同年次では、自分が将来進む方向性を見つけるという意識を持って学習に励んでほしい。

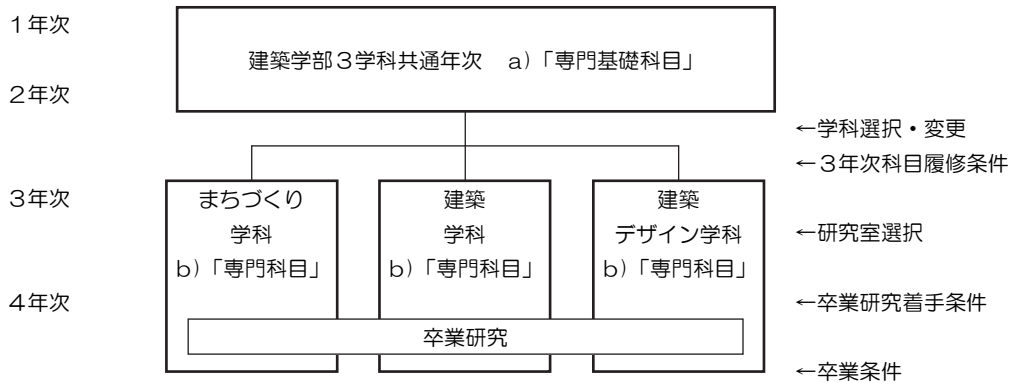
また、従来は1、2年次に集中して学んできたいわゆる一般教養科目を、A群の総合教育科目として1～4年次に分散配当しているため、専門教育と一般教養教育とを有機的に結びつけて、専門だけに偏らない、全人的な建築のプロフェッショナル育成という目標を達成できるような教育プログラムを構築している。

■建築学部3学科共同年次の学年進行の概要

建築学部3学科共同年次全体の教育理念を具現化するための仕組みは、概ね下図のようになっており、入学後、学年進行とともに徐々に細かく分かれていく。1、2年次におけるB群「専門科目」のa)「専門基礎科目」は、3学科共通のカリキュラムとなっており、選択の自由度は小さく、必修科目が多く配当されている。これらの科目は、建築学に関連するどのような分野に将来進んだとしても必要となる基礎的素養であり、また建築士資格取得のため

に必須のものである。

一方、3、4年次は、学科に分かれてそれぞれに対応したカリキュラムに従って学習するとともに、研究室単位での「建築セミナー」、「卒業研究」を履修する。各学科のカリキュラム編成は、それぞれの扉ページに記載されている。なお、学科の選択・変更の時期等については変更することもありえ、変更があった場合には掲示等で周知する。



■建築学部に設置されている各学科の教育理念

【まちづくり学科】

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がより快適に住み続けられるための「まち」の新しいあり方を学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を学修・研究する。都市デザイン、ランドスケープデザイン、環境共生、安全・安心を4本の柱として、多角的な視点から将来の「まち」を考え、実現していく素養を身につけていく。「まち」は建築の単なる集合体ではないが、建築がひとつの重要な構成要素である。建築の基礎的な素養・知識をベースにしてまちづくりを学ぶことで、さらに実現性の高いスキルを身につけられるのが、この学科の特徴である。

まちづくり学科の専門科目は、上記の4本の柱に対応して、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、都市デザイン科目、ランドスケープデザイン科目、環境共生科目、安全・安心科目から構成される。これらの中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究においては、机上の空論に留まらず、本学の立地条件を活かしたさらに実践的なまちづくりに接する中で、各自の研究テーマを考えていく。

【建築学科】

建築学科では、今後も継続して、安全で快適な生活の場を構築することを目的とした教育・研究を行う。しかし、その教育・研究のベースとなるスタンスは大きく変化してきている。これまでの大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築の考え方は今や終焉を迎えたのであり、安全で環境負荷の少ない生活環境の創造と維持を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。すなわち、人口減少社会、高齢社会、環境負荷軽減等の社会的な課題を背景として、建築をただ単に「つくる」だけでなく、それを使い続けたり、建築材料を資源として循環させたり、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を学生は学ぶ。

建築学科の専門科目は、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、建築計画科目、建築構造科目、建築設備科目、建築生産科目から構成される。名称だけだと旧来型の建築学科に見えるが、科目やその内容は最先端の上記の思想を反映したものになっている。これら4種の科目群の中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究では、外部の研究所や企業との連携を密とし、八王子キャンパスに整備されている実験施設も活用して、各自の研究テーマについて考察していく。

【建築デザイン学科】

建築デザイン学科では、単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えていく。建築の意匠デザイン、住宅・店舗等のインテリアデザイン、高齢者等に配慮した住環境デザイン、重要な建造物の保存・再生に関わるデザインなどを学び、新しいデザインを創造・発信していくのである。わが国は、戦後、建築の量的な充足に専心してきたが、次第に美しい国を目指すことができるようになり、建築に対しても美しさ、調和などが求められてきている。また、同時に環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）をも考慮した建築のあり方を学んでいく。

建築デザイン学科の専門科目は、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、建築デザイン科目、インテリアデザイン科目、福祉住環境デザイン科目、保存・再生デザイン科目から構成される。いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他学科科目と合わせて修得することでさらに高い学習効果を得る。専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が個別に十分な履修指導を行う。単なる建築デザインを扱うのではなく、福祉住環境、保存・再生などの、これまでの建築デザインから間口を広げて、今後、さらに重要度の増す視点を盛り込んで学科を構成している。また、卒業研究では、架空のプロジェクトだけに留まらず、本学の立地も生かしながら、さらに実践的なプロジェクトへの設計・提案や研究を各自行っていく。

〔 建 築 学 部 〕

3学科共通 専門基礎科目

2015年(平成27年)度入学生用

専門基礎科目

○印=必修科目, △印=選択必修科目, 無印=選択科目

区 分	種 別	授 業 科 目 科目名	単 位 数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備 考
				1 年		2 年		3 年		4 年		1	2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後						
〔 B 群 〕 専 門 科 目 a (専門基礎科目)		建築入門	2	1							○	◎					
		建築概論	2		1						○	◎					
	○	基礎設計・図法	2	2								◎					
	○	建築設計Ⅰ	2		2							○	○	○		◎	
	○	建築設計Ⅱ	2			2						○	○	○		◎	
	○	建築設計Ⅲ	2				2					○	○	○		◎	
	○	建築計画Ⅰ	2		1						○	◎					
	○	建築計画Ⅱ	2			1					○	◎					
	○	建築計画Ⅲ	2				1				○	◎					
	○	西洋建築史	2		1						○	◎					
	○	近代建築史	2			1					○	◎					
	○	日本建築史	2				1				○	◎					
	○	都市デザイン	2	1							○	◎					
	○	まちづくり論	2		1						○	◎					
	○	都市計画	2			1					○	◎					
	○	ランドスケープデザイン	2				1				○	◎					
	○	構造力学Ⅰ	2	1							○	◎	○				
	○	構造力学Ⅱ	2			1					○	◎	○				
		構造力学演習Ⅰ	1		1						○	◎	○				
		構造力学演習Ⅱ	1				1				○	◎	○				
	○	建築の構造	2				1					◎		○	○		
	○	建築構法	2	1							○	◎					
	○	建築材料	2		1						○	◎					
	○	建築施工	2				1				○	◎		○			
	○	設備計画	2	1								◎					
	○	環境工学Ⅰ	2		1						○	◎	○	○	○		
	○	環境工学Ⅱ	2			1					○	◎	○				
		建築設備工学	2				1					◎				○	
	建築法規	2				1				○	◎		○				
	△ 構造基礎実験	2			2					○	◎				○	これらのうち、いずれか1科目 2単位の修得を必要とする。	
	△ 材料実験	2			2					○	◎	◎	○	○			
	△ 環境基礎実験	2			2					○	◎						
	△ 測量実習	2			2					○	◎	○					
		建築技術者の倫理	2				1				○			◎			
		社会貢献学入門	2	1						○	◎	○	○	○			
		減災学入門	2		☆ または ☆						◎		○	○	注1)		
		小 計	70														

注1) 夏期集中

◇建築学部3学科共通年次の履修規定と履修上の注意〔第1部 2015年(平成27年)度入学生用〕

I 履修規定（建築学部全学科共通）

3 年次科目履修条件について

本学では、4年生までいわゆる「留年」という制度はなく、4年生まで自動で進級する。しかし、「3年次科目履修条件」を満たさなければ、3年生、4年生であるにもかかわらず、新宿キャンパスの3年次、4年次配当科目を履修することはできない。その条件は以下の2点である(下表1参照)。

最初の「3年次科目履修条件判定」は2年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定されることになる。なお、3年前期末、あるいは4年前期末に本条件を満たした場合は、その年度の「建築セミナー」の履修はできない。

- 1) [B群]専門科目の1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目全40単位、および、a)専門基礎科目・選択必修科目2単位の合計42単位のうち、36単位以上を修得する(選択必修科目(構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量演習)は2単位(1科目)しか履修できない)。
- 2) [A群]総合教育科目、[B群]専門科目から合計62単位以上を修得する[上記1)関連の単位も含む]。62単位以上修得しても、1)を満たさなければ「3年次科目履修条件判定」に合格することはできない。

卒業研究着手条件について

本学の「卒業条件」の一つに「卒業研究」8単位を修得することがあり、「卒業研究」(4年通年科目)を履修するためには「卒業研究着手条件」を満たさなければならない。その条件は以下の7点である(下表1参照)。各条件にいう単位数とは1年生からの累計修得単位数のことである。

「卒業研究」は4年通年科目であるため、最初の「卒業研究着手条件判定」は3年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の後期末に判定されることになる(「卒業研究」は4年通年科目なので、各年度の前期末に「卒業研究着手条件判定」は実施されない)。

＝[A群]総合教育科目に関わる条件＝

- 1) a)総合文化科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 2) b)自然科学系科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 3) c)外国語科目・必修科目6単位すべてを修得する。
- 4) d)保健体育科目・必修科目2単位すべてを修得する。ただし、上限は5単位である。

＝[B群]専門科目に関わる条件＝

- 5) 1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目40単位すべてを修得する。
- 6) a)専門基礎科目・選択必修科目2単位を修得する。なお、a)専門基礎科目・選択必修科目は2単位(1科目)しか履修できない。

＝修得総単位数に関わる条件＝

- 7) [A群]総合教育科目、[B群]専門科目から合計100単位以上を修得する[上記の1)～6)関連の単位も含む]。100単位以上修得しても、1)～6)を満たさなければ「卒業研究着手条件判定」に合格することはできない。

卒業条件について

本学を卒業するためには「卒業条件」を満たさなければならない。その条件は以下の8点である(下表1参照)。ただし、「卒業研究着手条件」を充足した時点で3)と5)はすでに満たしているため、実質は6点。各条件にいう単位数とは1年次からの累計修得単位数のことである。最初の「卒業判定」は4年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定されることになる。

＝[A群]総合教育科目に関わる条件＝

- 1) a)総合文化科目、b)自然科学系科目を併せて24単位以上修得する(「1年次指定選択必修科目」含む)。
- 2) c)外国語科目を8単位以上修得する(必修科目6単位含む)。
- 3) d)保健体育科目・必修科目2単位すべてを修得する。ただし、上限は5単位である。

＝[B群]専門科目に関わる条件＝

- 4) 1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目、および、3年次配当のb)専門科目・必修科目の42単位すべてを修得する。

- 5) a) 専門基礎科目・選択必修科目 2 単位(「卒業研究着手条件」の時点で修得済みの 2 単位のこと)を修得する。
- 6) 選択科目を 30 単位以上修得する。この中には建築学部他学科 3、4 年次配当選択科目を 14 単位まで含めることができる。
- 7) 4 年通年科目「卒業研究」8 単位を修得する。
- ＝修得総単位数に関わる条件＝
- 8) [A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目から合計 124 単位以上を修得する[上記の 1)～7)関連の単位も含む]。124 単位以上修得しても、1)～7)を満たさなければ卒業できない。

表 1

群	科目区分	3 年次科目履修に必要な単位数	卒業研究着手に必要な単位数(注 1)	卒業に必要な単位数(注 2)
[A 群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		1 年次指定選択必修科目 4 単位(表 2)	合計で 24 単位 (含む, a)総合文化科目, b)自然科学系科目の 1 年次指定選択必修科目各 4 単位)
	b) 自然科学系科目		1 年次指定選択必修科目 4 単位(表 2)	
	c) 外国語科目		必修科目 6 単位	8 単位(含む必修科目 6 単位)
	d) 保健体育科目		必修科目 2 単位 (上限 5 単位)	2 単位 (含む必修科目 2 単位, 上限 5 単位)
	e) 自由研究科目			
	f) キャリア科目			
[B 群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科目合わせて 36 単位	1,2 年次配当のすべての必修科目 40 単位	1,2,3 年次配当のすべての必修科目 42 単位
a) 専門基礎科目	選択必修科目		2 単位	2 単位
b) 専門科目	選択科目			30 単位
	卒業研究			8 単位
合計		62 単位	100 単位	124 単位

(注 1) 本条件の合計単位数 100 単位と[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目の必要最小単位数の合計 58 単位との差は 42 単位である。この 42 単位については、各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に修得すること。

(注 2) 本条件の合計単位数 124 単位と[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目の必要最小単位数の合計 116 単位との差は 8 単位である。この 8 単位については、[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目、他学科科目から自由に修得できる。

表 2

◆ 1 年次指定選択必修科目

	1 年生前期	1 年生後期
総合文化科目	建築ロジカルライティングⅠ または 総合文化アカデミックスキル	総合文化アカデミックスキル 建築ロジカルライティングⅡ
	美術 A	美術 B
自然科学系科目	基礎数学*	微分積分Ⅰ*
	または 微分積分Ⅰ*	微分積分Ⅱ*
	情報処理入門	物理学概論 A 化学概論

*基礎数学、微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱの中から複数科目修得しても、すべて卒業単位とはなるが、1年次指定選択必修科目として認められるのはそのうちの1科目のみである。

II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 将来、もしカリキュラム改変が実施された場合、入学年度のカリキュラムにない専門科目の単位修得は「建築学部科目変遷表」（その場合は『履修の手引き』に掲載）によって認定される。また、「建築学部科目変遷表」において、現カリキュラムの専門科目に対応する科目と設定された科目は、名称が異なっても、重ねて履修することはできない。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、工学部第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、『履修の手引き』などで別途定める。

III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、休学期間の有無や3年次科目履修条件の充足・未充足に関わらず、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定する。所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目があっても、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、「まちづくり演習」、「建築演習」、「建築デザイン演習」は重ねて履修できない。
- (ロ) 3年後期「建築セミナー」と4年通年「卒業研究」は研究室登録手続きを経て研究室に所属しないと履修できない。研究室登録手続きの詳細については建築学部掲示板などで周知する。
- (ハ) 履修上の注意については、『履修の手引き』の他、必要に応じて建築学部掲示板やキューポートにて指示する。